



世田谷区、都立砧公園に新しく整備された遊具ひろば「みんなのひろば」。

「みんな」は、年齢や性別、能力、経済・社会的背景などの違いにかかわらず「すべての人」を指しています。今まで公園に遊びに来られなかった人が来られるように、遊びにくかった人も居心地が良くなるように…でも、それぞれの事情や思いがわからないのに、みんなが心地よいと思える環境もわからないですよね？ いろんな立場の人のいろんな声、まずは知ってみませんか？

※「みんなのひろば」内アンケート／ヒアリング調査200人、関係者等（砧公園外）ヒアリング100人

障がい（障害）、でこぼこ、ハンディ、スペシャルニーズ…

今はいろんなことばがあるけれど、

分けるから見えること、

逆に見えにくくなることもあるのかもしれない。

地域の公園を地域の人「みんな」で

居心地のいい場所に育てていけたらよいですね。



「障がい」の表記について

「障害」と「障がい」、どちらを表記するかは、現在議論が分かれていません。「障害」の“害”という漢字が負のイメージを連想するため、ひらがな表記にする考え方がある一方で、『障害=バリア』は、個人の心身機能にあるのではなく社会や環境のあり方・仕組みが作りだしている（※障害の社会モデルという）という観点から、ひらがなにすることで「社会に障害があることの認識が薄れてしまう」という意見もあります。この冊子では、社会モデルの考え方がまだ広く一般に浸透していない状況から、何も知らない人でもマイナスイメージをもたない「障がい」という表記を採用しています。

発行：公益財団法人 東京都公園協会

制作：一般社団法人 TOKYO PLAY

イラスト・デザイン：淵上恵美子

写真：壬生真理子 (arTeaTreaT)

編集：矢野真利那 (TOKYO PLAY)

神林俊一 (TOKYO PLAY)

中村杏子 (合同会社まちとこ)

調査協力：寺田光成 (千葉大学園芸学部博士研究員)
arTeaTreaT

障がいのあるなしに関わらず一緒に遊べる、

「みんなのひろば」を知っていますか？

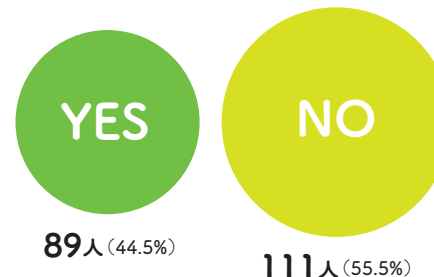


あなたやあなたのお子さんは、普段、障がいのある人と関わる機会がありますか？
障がいのあるなしに関わらず一緒に遊べる「みんなのひろば」に遊びにきた
親子やグループなど200人に、アンケートにて聞いてみました。

Q1

「みんなのひろば」の
コンセプトを知っていますか？

(コンセプト：障がいの有無を問わず遊べる場)

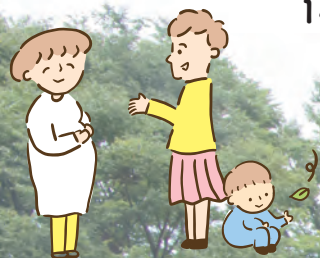
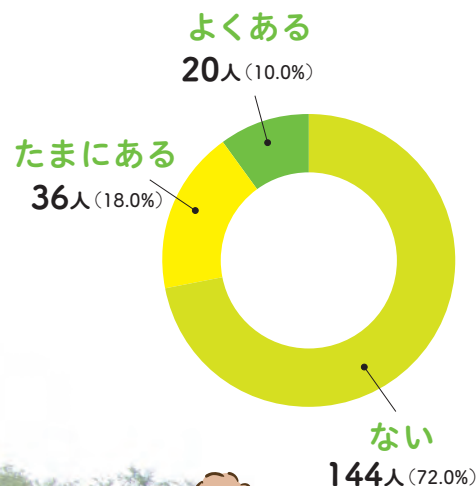


ちなみに、「みんなのひろば」が新しくなる前の遊具ひろば(アスレチック広場)のことは知っていましたか？という質問には、121人(60.5%)が「遊びに来ていた」、33人(16.5%)が「知っていたが来ていなかった」、46人(23.0%)が「知らなかった」と回答。引き続き遊具ひろばとして使っている人が多いですね。

Q3

お子さんが
障がいのある人と
一緒に遊ぶ機会がありますか？

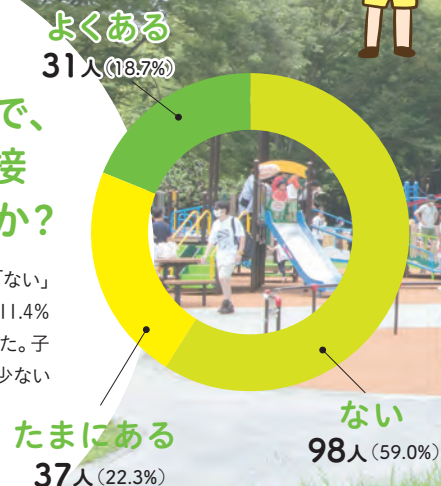
遊ぶだけではなくても「直接関わる機会がありますか？」という質問にも、「ない」が65.0%、「たまにある」が22.5%、「よくある」が12.5%と、日常的に遊ぶ機会も関わる機会も少ないことがわかりました。また、遊ぶ機会について「わが子に障がいのない」人の回答の割合は、「よくある」と回答した人が4.6%と減少。ちなみに、「あなたの子どもの時代、障がいのある人と一緒に遊ぶ機会がありましたか？」という質問には、「なかった」が71.7%、「たまにあった」が18.1%、「よくあった」が10.2%。子育て世代の人は、現在の子どもたちとほぼ状況が変わらないと言えるかもしれません。



Q4

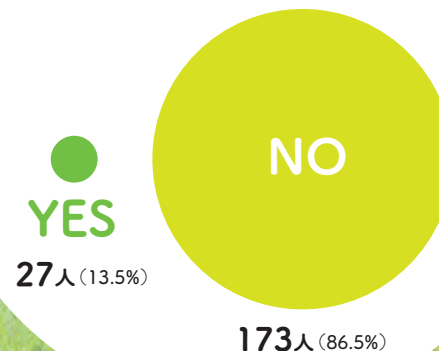
あなた(子どもの家族
や引率者)の身近で、
障がいのある人と直接
関わる機会がありますか？

「わが子に障がいのない」人の回答の割合は、「ない」が66.4%、「たまにある」が22.1%、「よくある」が11.4%と、更に関わる機会が少ないことがわかりました。子どもだけでなく、大人自身も日常的に関わりが少ないことが見えてきました。



Q2

お子さんに
障がいがありますか？



〈アンケート回答者について〉

総回答者数：200人…お住まいは、公園の近くが137人(68.5%)、それ以外の区内在が34人(17.0%)、都内25人、都外4人

公園にいる みんなの本音を聞いてみました！

公園の過ごし方、それぞれ //

いつもの公園。楽しそうに遊ぶ子どもや家族たちですが、
実は、みんな心の中ではこんなことを考えていたりして？
調査員が聞いてきた、公園に遊びに来た親子の声や思い、ちょっとのぞいてみませんか？

え、ちょっと危なくない？！
うちの子には無理でしょ。
違うところ行こ…

もっともっと速くー！

大きい子と小さい子が
一緒に遊ぶって難しい
よな…

よーおし！

うちの子、
ふっとんじゃうー！

とっても楽しそう！激しい
動き好きだから大きい子と
一緒に乗れてよかったな

順番まだかな～？

久しぶりにのったなー！
大人でも楽しいもんだなー！

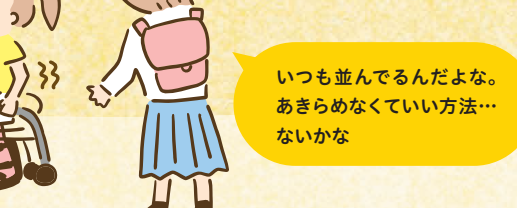
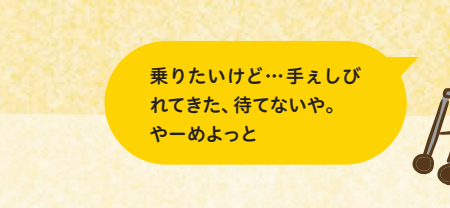
普段は見ないブランコ！
お友達といっしょに遊べ
て楽しそう！

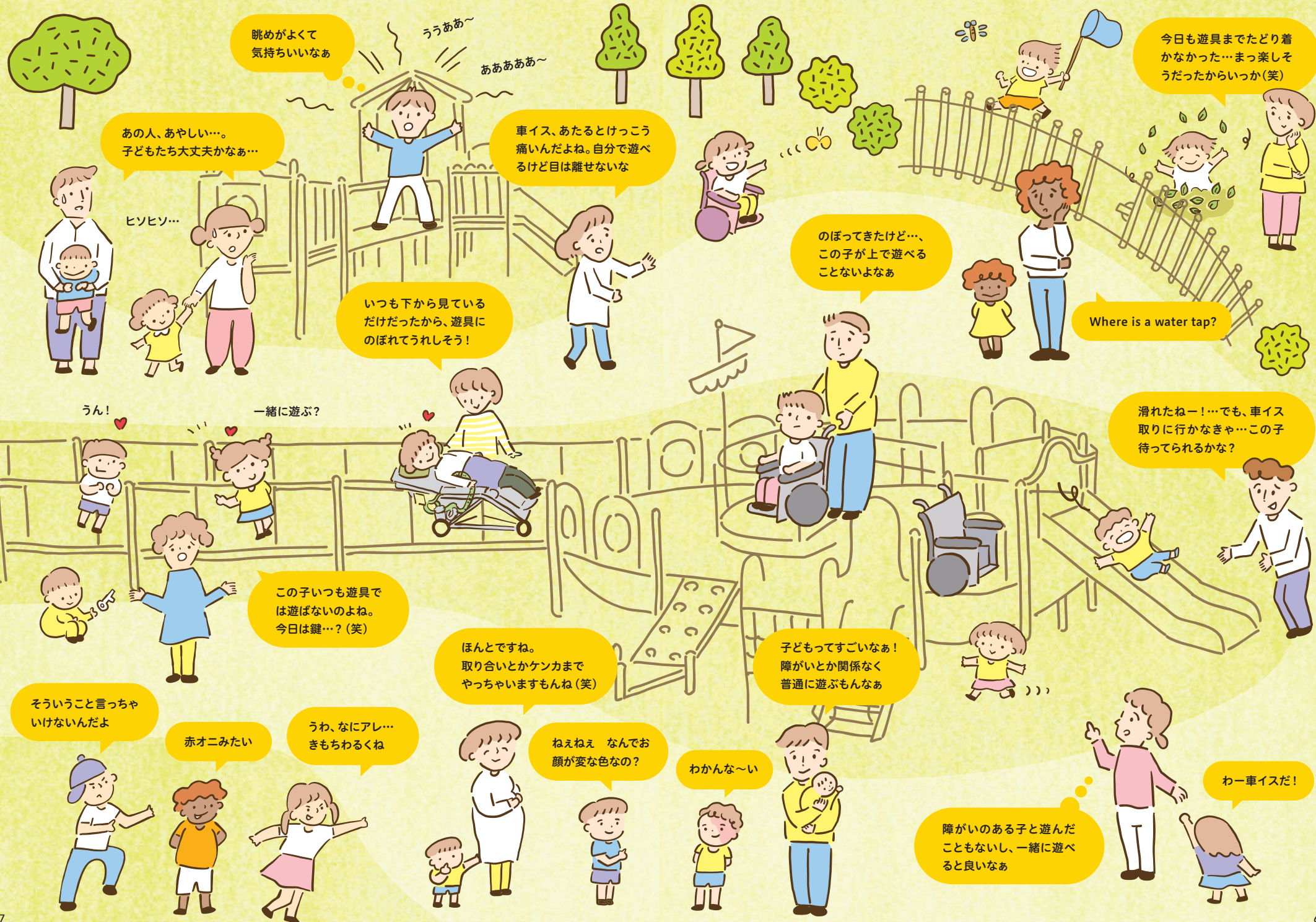
ブランコに乗れる日
が来るなんて…！！

乗りたいけど…手えしび
れてきた、待てないや。
やーめよっと

いつも並んでるんだよな。
あきらめなくていい方法…
ないかな

ちよっちよっちよっとなー！！
どっちを追いかけたらいい
のお！？ もう勘弁してー！！





幼稚園や保育園では障がいのある子どもも一緒に
のところが増えてきましたが、小学校に入ってしまう
と支援級や支援校と分けられてしまいます。や
はり教育現場での関わりを考えないと障がいの理
解は広まらないですね…

(発達障害のある子の母)

小学校に入ると
関わりが減ってしまうのが
残念…

うちの子は年齢も見た目も大きいけど、小
さい子用の遊具がとても好きなんです。で
も、健常の子の親たちから変に見られた
り、対象年齢のシールを指して「対象年齢
ではないですよ?」と注意されたこともあ
り悲しくなりました…

(知的障害のある成人の母)

遊具に対象年齢シールが
貼ってあると、その年齢以
下だと遊ばせづらいです

(2歳児の母)

遊具によって対象年齢が決まっている
のだから、年齢以下の子が使うと危な
いのでやめてほしいです。小さい子に
気を使って、対象年齢の子たちが我慢
することになるのはちょっと…

(小学生の母)

対象年齢シールに
まつわるトラブル



実はあのシールは、
「一番楽しく遊べる年齢の参考表示」
です。対象年齢外の人が「使えない」表示で
はないんですよ。

みなさん、お話を聞いていただいて、ありがとご
ざいます! 障がいがあってもなくても、子どもに
とって遊びが大切なのは変わらないこと。みなさ
んの声を活かして、すべてのお子さんが楽しめる
公園づくりを一緒にがんばりたいと思います!
そして、公園がお互いの関わりづくりのきっかけ
のひとつになれば…と願っています。

うちの子は定期的な栄養の注入や吸引が必要
なので、生き死にに関わる外出時間の制約があ
ります。私だけだったら車で15分の距離も、子
どもと一緒にだと1時間かかることも。でも、やっ
との思いでたどり着いても、遊具にたくさん並ん
でいるとあきらめざるを得ないんです

(肢体不自由で医療的ケアが必要な子の母)

まわりの目を気にしたり、子どもを
連れて移動する大変さを考えると
本当にしんどいです。公園にすら来
られない親子もいっぱいいると思
うので…そうした人たちの想いも
聞いてもらえると嬉しいんです

(自閉症の子の母)

そもそも
公園に行くこと自体
ハードルが高い!

他にもまだある!

公園での
それぞれの思い

他にも、まだいろいろな事情を抱えた方がいます。

「こんな設備があったらいいな」

「こんなことがあって困ってる…」など、

公園に遊びに来た親子からさまざまな声を集めました。

障がいのある子どもにとって、遊び
のことを話したり伝えたりする場所
はほぼないので、話を聞いてくれる
機会があるだけでもうれしいです

(身体障害のある子の母)

障がいのある子どもの
遊びを保障してほしい

遊具が簡単すぎて、上の子にはも
の足りないみたい。地域にもっと
ワクワクしたりチャレンジできる
遊び場があればいいのにな

(6歳と11歳の母)

もっとチャレンジできる
遊び場がほしい!

夏場は日陰がないと大変。
子どもはもちろん付き添う
大人にとっても。夏場は水
遊びができる場所があると
いいですね

(幼児の父)

夏場は太陽光ですべり台
が熱くて滑れないことが
あるので、そういう遊具だ
けでも日陰にできたら…

(幼児の祖母)

夏は日陰がないと
厳しい〜っ!

遊具ひろばからトイレや売店までの移動がひと
苦労です。うちの子は少しでも目を離すとすぐど
こかに行ってしまうので、ちょっとした距離でも自
転車に乗せて移動(笑)。なので、遊具とトイレ
と売店が隣接しているととても助かります

(自閉症の子の母)

もっと障がいに配慮した
設備や導線設計がほしい

うちの子は大きいけどおむつをしているので、
成人も使えるベッドタイプのシートがあるトイ
レしか使えません。でも、「だれでもトイレ」っ
て赤ちゃん用シートのところが多くて…

(肢体不自由の子の母)

友達の弟が障がいがあるらしいけど、だから何？って感じ。

いつも家に遊びに行くと、その子も入ってきて

みんなと一緒に遊んでるよ？

(小4)



外で〇〇(兄)がワッと騒ぎ出すと、いつも周りの人が

チラチラ見ながら通り過ぎるの…

そういう時、私はどうしたらいいのか

わからなくて悲しくなる

(小3・きょうだいが知的障害あり)

自閉症がよくわかんないけど、

おしゃべりが苦手なんでしょう？

まあ、うちのクラスにも変わってる子は

いっぱいいるし、別に気にならないよ

(小3・きょうだいが自閉症)

うるさいしわがままだし、

毎日日本当ムカつくことばかり！

でも、寝顔だけは世界一かわいい♡

(小5・きょうだいが発達障害あり)



機械がつかっていたり、

ベッドみたいな車いすに寝たままの子たち

(医療ケア児)とはじめて会った時、

よくわからないけど大変そうなことだけはわかった。

でも正直、どう関わっていいのわからなかった

(小5)

学校に支援学級があるけど、正直、そのクラスとの交流時間は

あんまり好きじゃない。

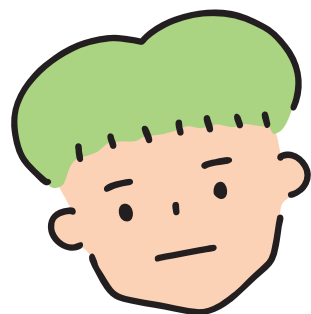
話を通じにくいっていうか、

なんか調子狂うから

(小6)

学校に支援級があるけど、別にーって感じ。
友達はクラスにいるし、特に興味ない

(小5)



子どもの本音も

さて、子どもたちはどう思っているんでしょう？

みんなのひろばに来ていた子、きょうだいに障がいのある子、

いろんな子どもたちの本音、聞いてみました。

集めてみました！



普通のクラスは数字なのに、

どうして支援級だけ

ひらがなの名前なんだろう？

(小1)

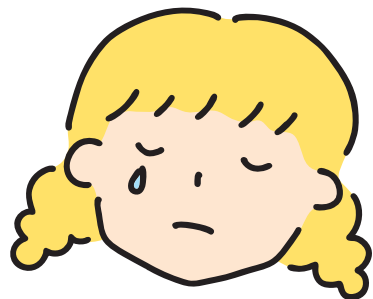
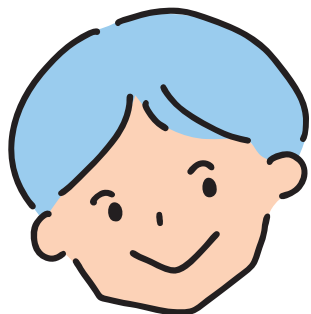
弟が小さい頃は、

なんでほかの子みたいに

おしゃべりしないんだろ？って

すごく不思議だった

(小4・きょうだいが知的障害あり)



友達の弟も私の弟も同じ自閉症で、2人の間だと弟の悩みが

すごくわかり合える！

(小6・きょうだいが自閉症)

障がいつてなに？知らない。

学校？いないと思う。

会ったことないかなー？

(小5)

学校のクラスにいる。

普通に仲よしで、

いつもその子はサングラスをしてる。

外すと目が痛くなるんだって。

遊ぶときは鬼ごっこしたりして

遊ぶかな！

(小4)

同じクラスにいて、放課後たまに遊ぶことある。

(何の障がい？)

たぶん発達とかかなー？

(どうしてわかるの？)

勉強あんまりできなかったりするから

(小5)

学校の交流給食で、

「〇〇の妹と一緒にのテーブルで食べたよ。超かわかった！」

とか言われると、

ちよっと恥ずかしいけど、やっぱりうれしいな

(小5・きょうだいが知的障害あり)

学校の全校朝礼で、弟が騒いじやったことがあって、

クラスの男子に「お前の弟うるさかったぞ！」って言われた時は、

悲しくて帰り道に涙が止まらなかった

(小6・きょうだいが自閉症)





欠けているかもしれない」と思ってしまいかもしれない。医者が区別するのはいいけど、我々は使われないいいよ。だから、この言葉を気軽に使うのは、絶対にやめてほしいと思うてる。

言葉というのは恐ろしいもので、現実にならないものを作って事実だと思ひ込ませる力があるんですよ。例えば、「頭の中で真ん丸をイメージして」と言われたら簡単にイメージはできるけど、実際に真ん丸を描くことは絶対にできない。なぜって？ だって、どんなに真ん丸に見えても顕微鏡でみれば線はギザギザだから。つまり、我々があると思ってるのは、頭の中で言葉で作っているもので、実際にあると思わせるのが言葉の魔力なんです。僕だったら、言葉のそういう限界をふまえた上で「個性の豊かな人」とか「得手不得手の激しい人」とか、そういう定義にするよね。そう言われたら、あなたにだって通じるものがあるでしょう？ 発達障害も名前が悪い。僕は「スペシャルタレント子ども（特別な才能がある子）」って言うてるよ。

長い人類の歴史の中で、99.9999...% 今だけ

ちよつと話かとぶけど、我々人類（ホモサピエンス）がここま

ペースなんかを併設して、「施設に関係ない人も自由に出入りしてください」ってね。

実際に、僕の知り合いでそういう保育園を作った人がいるんだけど、そこは障がいがあるないも関係ない、国籍も関係ない、誰が来てもOK。配慮はちゃんとするけど、区別はしない。そうすると子どもたちが特別扱いされないから、すごくうれしくて顔が変わるんだよね。21世紀モデルで、そういうふうな考え方を少しずつ広げていきたいよね。

今のインクルーシブ教育では統合教育に過ぎない

今、文部科学省が一生懸命やってるインクルーシブエデュケーションも、多くのところではインテグレートッド（統合）エデュケーションにすぎないよね。本来、インクルーシブエデュケーションというのは、いろんな子が一緒にいることによって、お互いの人間理解が深まることこそが重要な。健常と言われる子が障がいがあると言われる子と一緒に学ぶことによって、お互いに人間理解が進んだり、もっと自分の理解が深まったり。既存の授業をただ一緒に受けているだけ、片方に合わせさせるだけの教育とはまったく違うんだよね。

21世紀モデルを公園からはじめよう

我々の21世紀モデルをどこから始めていくかって考えた時、

で進化してきたのは、他の動物より共感能力が圧倒的に高かったからなんです。分け合うという思想がある動物だったから、食料も分け合って食べたり、狩りで協力したり、仲間が死んで悲しんだりした。で、生活をしていたら、当然ケガをしたり病気になるりするでしょう？ でも、そうだったからといって「あつちいけ」なんて集団から追い出すことはなかった。

長い人類の歴史の中で、こんなに人の間に垣根を作って区別しているのは、99.9999...% 今だけ！ 社会が資本主義になつてお金を稼ぐことが目標になると、いかに効率よく生産するか考えるでしょ。それに適応できない人間は排除されていく。それじゃまずいからと、「障害者」を「健常者」に近づけようと、でも実際には人に迷惑をかけないように教育しようと思つたのが「障害者教育」なの。でも、多くはアパルトヘイトだよな？ これが20世紀に100年以上かけて作ってきたモデルなの。21世紀のこれからの時代、もうそれはやめようよって思う。

配慮はするけど区別はしない

もちろん、その子の個性や学ぶ内容によっては、分けて個別に教えた方が良くてもたくさんあるよ。でも、隔離された施設の中で当人だけが一生懸命やっている、というやり方はおかしい。誰が入り出してもOKなところにして、もっと地域に開かなきゃ。余計な塀は全部取り払って、ちよつとしたカフェス公園って本来開かれていた場所であるべきだから一番交わりやすいんじゃないかな？ でも、いきなりだと関わり方がわからない人も多いだろうから、相互の仲介ができるコーディネートミタミたいな人がいた方がいいね。で、子ども同士が何か関わりを持って、お互いに喜んでくれたという体験を戦略的に作っていく。例えば、「あそここの公園では障がいがあると云われる子とそうではないと言われる子が一緒に遊んでいて、うちの子が手を貸してあげたらすごく相手の子が喜んでくれたの。それを見たうちの子もすごくうれしそうだったよ」という感じに。やっぱり変えていくのは、人の力なんだよね。

